

にしおの

ハンガリーから西尾へ イチジク栽培に挑戦

おっ!



のどかで温暖な気候に魅せられ、4月から東幡豆町でイチジク栽培を始めるハンガリー出身の若い女性がいいます。「ようやく独り立ちできる。ワクワクでいっぱい」と、流ちょうな日本語で話してくれたヤーンボルアリズラウラ (Anett or Aiz Laura) さん。北海道出身の夫、小林淳さんと共に、将来への期待に胸を膨らませています。JA西三河が開催する「いちじ



くスクール」で栽培の技術や知識を基礎から学びながら、認定農業者である渡辺泰英さん(東幡豆町)の下で、実践的な栽培手法や経営ノウハウを教わってきました。今は書類の作成など、就農に向けた準備を着々と進めています。

愛知県では昭和40年代以降、水田の転作作物としてイチジク栽培が本格化。現在、作付面積、生産量ともに全国1位です。中でも、西尾市を含む西三河地区は、県内生産量の半分以上を占める中心地。「西三河イチジク」ブランドを確立し、全国に甘い果実を出荷しています。苗木を植え付けた翌年から収穫でき、3年目には成木並みに収穫できるなど、栽培を始めやすいことから、新規就農者が増えているそうです。

ヤーンボルさんは平成24年に留学で来日。大学で小林さんと出会います。1年後に帰国してからは、日本語が話せることを生かし、旅行アドバイザーとして働いていました。小林さんは卒業後、ヤーンボルさんがいるハンガリーに移住。ハンガリー語を学びながら、日本



ヤーンボルさん

食レストランで働きます。しかし生活リズムが合わず、二人は「もっと一緒にいたい。生活を変えたい」と思うようになります。

元々農業に興味を持っていた小林さん。安定した品質と高い糖度が売りの西尾のイチジクが、JAや行政のバックアップで就農までの環境が整っていることをインターネットで知ります。また、海や山に囲まれた風景、おしゃれなカフェなどの写真を眺めているうちに、幡豆での暮らしに徐々に引かれ始めた二人は、イチジク生産者となることを決意し、昨年3月に幡豆へ移り住みました。幡豆の印象は「自然に囲まれて、過ごしやす。出会う人がみんな親切」。気さくに話しかけられたり、新鮮な野菜をお裾分けしてもらえたりと、移住者にも、とても親切にしてくれたそうです。

取材に訪れた11月のある日。「渡辺さんがイチから丁寧に教えてくれたおかげで、自立のめどが立った」と自信に満ちた表情の小林さん。ヤーンボルさんは「ハンガリーに住む両親と一緒に、大好きな



いちじくスクールで苗木の定植を学ぶ

幡豆でイチジクが作れたら最高」と夢を話してくれました。「早朝の作業は大変だけど、疲れが心地よい。都市部では味わえないゆったりとした暮らしが幡豆にはある。人とのつながりに感謝している」。すっかり地域になじんだ二人は、思い描いていた通りのスローライフを満喫しています。「いつかカフェを開いて、採れたてのイチジクを使ったスイーツを提供したい」。将来を見据えてそう話す二人の瞳は、キラキラと輝いていました。

店頭に並ぶイチジクを手にとると、生産者としてヤーンボルさんと小林さんの名前。ひとくち頬張ると、笑みがこぼれる——そんな日が待ち遠しいですね。(山崎豊)



小林淳さん



シニアライフを一緒に楽しく

ハッピーハッピーエンジェル

ハッピーハッピーエンジェルは、「シニアがシニアを元気にする」をモットーに活動する市民団体です。現在会員は10人。主に毎月第4木曜日に市内で活動しています。

シニアを元気にするためにまず大切なのは、自分たちが元気に過ごすこと。毎月食事や旅行に行ったり楽しんでいきます。春には花見、冬にはクリスマス会を行いました。

中高年がモデルになるファッションショーも企画しています。28年12月の第1弾を皮切りに、これまで安城市で3回開催しました。会員を含め、毎回10人以上の女性が参加。自前のおしゃれな服を着て、大勢の観客の前を歩きます。テレビ番組で取り上げられたためか、街を歩いていると知らない人から声を掛けられることがあり、反響の大きさに驚いています。今後、西尾市でも開催したいと思っています。

現在、男女を問わず会員を募集しています。活動を通じ、家の外に出る機会が増え、さまざまな人と出会うことができます。長生きの時代、みんなで楽しいシニアライフを過ごしませんか。

☎ 西部 (090・9935・7739 / 今川町)

このコーナーに登場してくれるサークル・ボランティア団体を募集しています。詳しくは、秘書課広報担当 (☎65・2159) へ。



かんぺい
鈴木 勘平くん
(一色町)

平成28年2月生まれ
お兄ちゃんたちが大好きな勘ちゃん♡たくましく育ってね。



いちか
手島 彩花ちゃん
(吉良町)

平成27年7月生まれ
元気すぎるほど元気な
いちか♡笑顔いっぱい
で優しい子になってね。



しょう
加藤 丞くん
(巨海町)

平成28年8月生まれ
元気に育ってくれてあ
りがとう。みんなジョ
ーが大好きだよ！



ゆきな
柴田 幸奈ちゃん
(深池町)

平成28年7月生まれ
歌と踊りが大好きなわ
が家のアイドル♪もう
すぐお姉ちゃんだね♡



ひろゆき
田代 大幸くん
(今川町)

平成28年8月生まれ
いつもニコニコ笑顔の
大幸。お兄ちゃんと仲
良く元気に育ってね!!



りいちろう
小林 理一朗くん
(寺津町)

平成28年7月生まれ
ぼかぼか笑顔のりい
くん♡ずっと父ちゃん母
ちゃんの太陽でいてね。



あやか
高原 彩加ちゃん・真生ちゃん
(八ツ面町)

平成27年11月生まれ
歌好きな彩ちゃん♪踊りが好きな真生
ちゃん♡いつもたくさんの笑顔と幸
せをありがとう。双子で仲良く大き
くなあれ!!

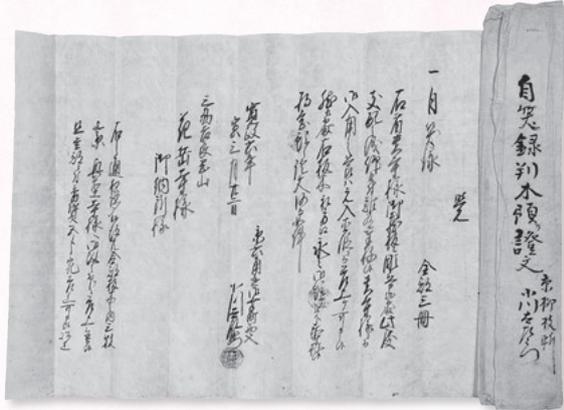
キ
ツ
ズ
ア
ル
バ
ム

西尾市史ニユース 18

江戸時代の出版の仕組みを知る資料

岩瀬文庫学芸員 林知左子

吉良町岡山の古刹・祥雲山花岳寺に、興味深い古文書が遺されていました。寛政6(1794)年3月22日付、京は六角通の老舗書肆(本の出版・販売店)柳枝軒の小川太左衛門が花岳寺に宛てた、『自笑録』という本の版木の預かり証文です。『自笑録』は寛政5年刊行、臨濟宗の高僧で花岳寺の第五世住職であった良哉元明の詩文集で、花岳寺の蔵版本でした。蔵版本とは、書肆による一般的な出版と異なり、版木を彫る経費を蔵版者が出資し、印刷製本と販売を書肆が請け負うというやり方で出版された本のことです。



『自笑録』版木預かり証文 一通/花岳寺蔵

この文書には、『自笑録』の版木の所有権、つまり著作権が花岳寺にあることを保証し、版木は柳枝軒が保管するが、花岳寺が本を入手する時は原価で印刷製本すること、また版木のうち3枚は興聖寺(京都市上京区)に預けることなどが記されています。版木を刷って製本・販売するにはノウハウが必要ですので、花岳寺が京の老舗書肆に版木を預けるのは道理です。しかし、書肆が勝手に増刷して売ることが防ぐため、版木のうち3枚を別置しておくというわけです。さらに、興聖寺から版木を受け出す際には、増刷一部につき銀五分をお香代として納める、とも記されています。これなら興聖寺も快く3枚の版木を預かってくれたことでしょう。思わず「なるほど!」となる、うまいシステムです。

岩瀬文庫 (☎56・2459)

月刊!! スポーツにしお

Vol.35

インターハイへの機運、高まる 西尾市で少林寺拳法競技大会を開催

8月3日(金)～5日(日)の3日間、総合体育館で「30年度全国高等学校総合体育大会(インターハイ)」の少林寺拳法競技大会が開催されます。全国から約700人の高校生拳士が集い、日本一を決める大会です。観覧料は無料。ぜひ会場で、迫力ある戦いをご覧ください。

インターハイは昭和38年に誕生した高校生最大のスポーツの祭典で、夏と冬に行われています。平成23年度に、それまでの各都道府県の単独開催から、全国を地域割りしたブロックごとの開催に変更。今年三重県を幹事として、愛知・岐阜・静岡県が合同で開催します。愛知県では昭和58年以来的の開催です。

高校生によるインターハイのPR活動の一つとして、大会開催日までの日数をカウントする「カウントダウンボード」を総合体育館

1階ロビーに設置しました。愛知県インターハイ推進室の依頼を受けて、碧南工業高校電子研究部の生徒の皆さんが製作したもので、LEDを使ったデジタル表示は、数字だけでなく、文字も流すことができる優れたもの。製作に携わった7人の生徒の皆さんは「開催日時の下に引いた水色の横線がこだわり。文字を斜めに描いて目立たせ、パネル全体の雰囲気壊さないように心掛けた」そうです。

ボードには市観光協会マスコットキャラクター「まーちゃ」も描かれ、大会への機運を高めてくれます。ぜひ見に来てください。



図スポーツ課振興担当 (☎54・0002) / 総合体育館内

西尾市のデータ

人口



	1月1日現在	前月比
男性	87,026人	-22人
女性	84,854人	+18人
計	171,880人	-4人
世帯数	63,378世帯	+12世帯

交通事故の状況



	人身事故 件数	死傷者	
		負傷者	死亡者
12月	67件	83人	0人
29年累計	709件	862人	2人

犯罪発生状況



	刑法犯総数	侵入盗	特殊詐欺
12月	73件	5件	1件
29年累計 (被害総額)	834件	131件	8件 2,719万円

消防の状況



	火災	救助	救急
12月	7件	4件	557件
29年累計	75件	44件	6,586件

今月の表紙

25年に国連教育科学文化機関（ユネスコ）の無形文化遺産に登録された「和食」。それを支える醸造調味料の蔵元が西尾、半田、碧南、常滑の4市に集まっています。醸造文化を生かして観光客の誘致を目指す「竜の子街道プロジェクト」は、昨年12月には全国紙で取り上げられるなど、その取り組みが注目されています。

編集雑記

いよいよ2月9日(金)から平昌冬季オリンピックが、3月9日(金)からパラリンピックが始まります。時差が少ないお隣り韓国での開催ということで、寝不足を心配せずにテレビで生中継を楽しめそうなのがうれしいです。9ページ「まちの話題」で紹介しましたが、昨年12月20日にショートトラックの日本代表選手が、東幡豆小学校の児童にスケートを指導するため、西尾市を訪れました。本大会での活躍に注目したいと思います。(金)

スクールスマイルショット

School Smile Shot

●東幡豆小学校

12月13日、かけ足運動納め会が行われました。真冬のような寒さの中、同級生や応援に駆け付けた保護者からの声援に応えるように、児童たちはゴールまで力いっぱい走り抜いていました。



●吉良中学校

1月9日に、競書会が行われました。新春の恒例行事で、3年生の今年のお題は「生命の尊重」。緊張感が漂う教室では、生徒が真剣な表情で机に向かい、書を書き進めていました。



●津平小学校

1月10日、一斉に取り組む一体感を味わい、書写への意識を高めようと書き初め競書会が行われました。児童たちは「とめ」「はらう」や「バランス」などに気を付けながら、丁寧に筆を走らせていました。



【西尾市役所】

URL (パソコン) <http://www.city.nishio.aichi.jp/>
(携帯電話) <http://www.city.nishio.aichi.jp/mob/>

E-mail nishio@city.nishio.lg.jp

■本 庁 ☎0563・56・2111 (代表)
〒445-8501 西尾市寄住町下田22

■一色支所 ☎0563・72・7111 (代表)
〒444-0492 西尾市一色町一色東前新田8

■吉良支所 ☎0563・32・1111 (代表)
〒444-0596 西尾市吉良町荻原川畑20

■幡豆支所 ☎0563・62・5511 (代表)
〒444-0798 西尾市西幡豆町仲田14-2



バーコード対応の携帯電話などで読み取ると「モバイル@西尾市役所」が閲覧できます。